

崇仁テラス Suujin Terrace 2017 (崇仁高瀬川保勝会+井上明彦)

主旨：京都市立芸術大学移転整備プレ事業《still moving 2017：距離へのパトス》*の一環として、移転地の崇仁地区に流れる高瀬川に〈テラス〉を仮設し、「漂流するアクアカフェ Drift@KCUA-Cafe」という交流イベントを行う。〈テラス〉は京都芸大移転基本コンセプトであり、「漂流するアクアカフェ」は、京都芸大の教職員、学生、卒業生、設計者、地域住民、各種専門家らが、未来の芸術大学のあり方をめぐって意見交換と交流を行うもの。今回のテーマは、「高瀬川とその自然環境の創造的活用」。合わせてキャンパス計画のあり方、地域コミュニティとの関係なども話合う。巻末のレジュメ参照。

主催：崇仁高瀬川保勝会 + 井上明彦

設計・施工：井上明彦（美術家／京都市立芸術大学教員）

協力：地域住民、崇仁発信実行委員会、漂流するアクアカフェ・スタッフ他

場所：下京区下之町 7-80（塩小路高瀬川南下る）高瀬川上

構造：木造軸組、板張り、8×6m

日時：2017年10月19日（木）～11月30日（木）

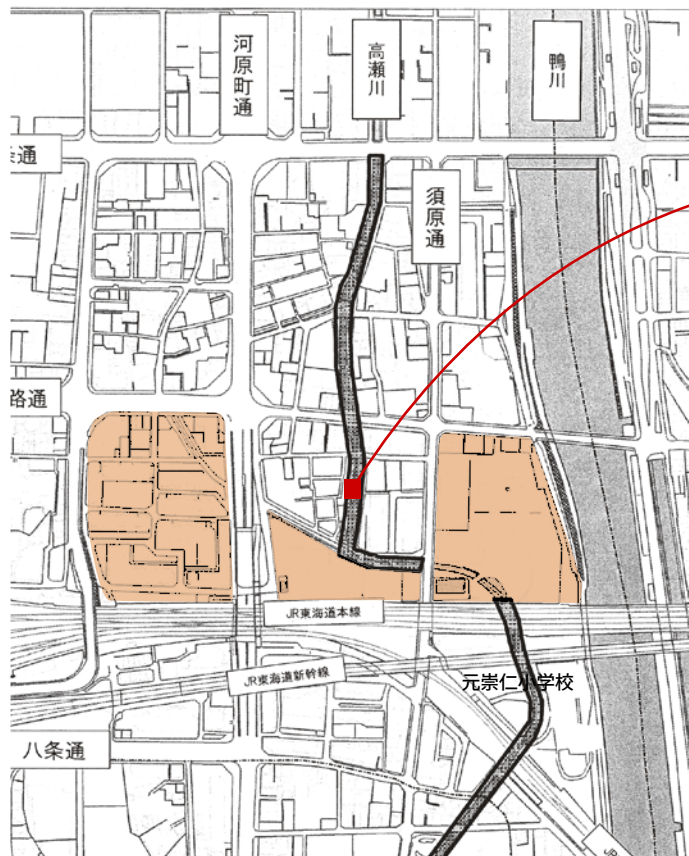
（*当初は10月30日撤去予定だったが、地域住民の要望により、11月30日まで設置延長）

・施工：10月19日（木）～21日（土）3日間

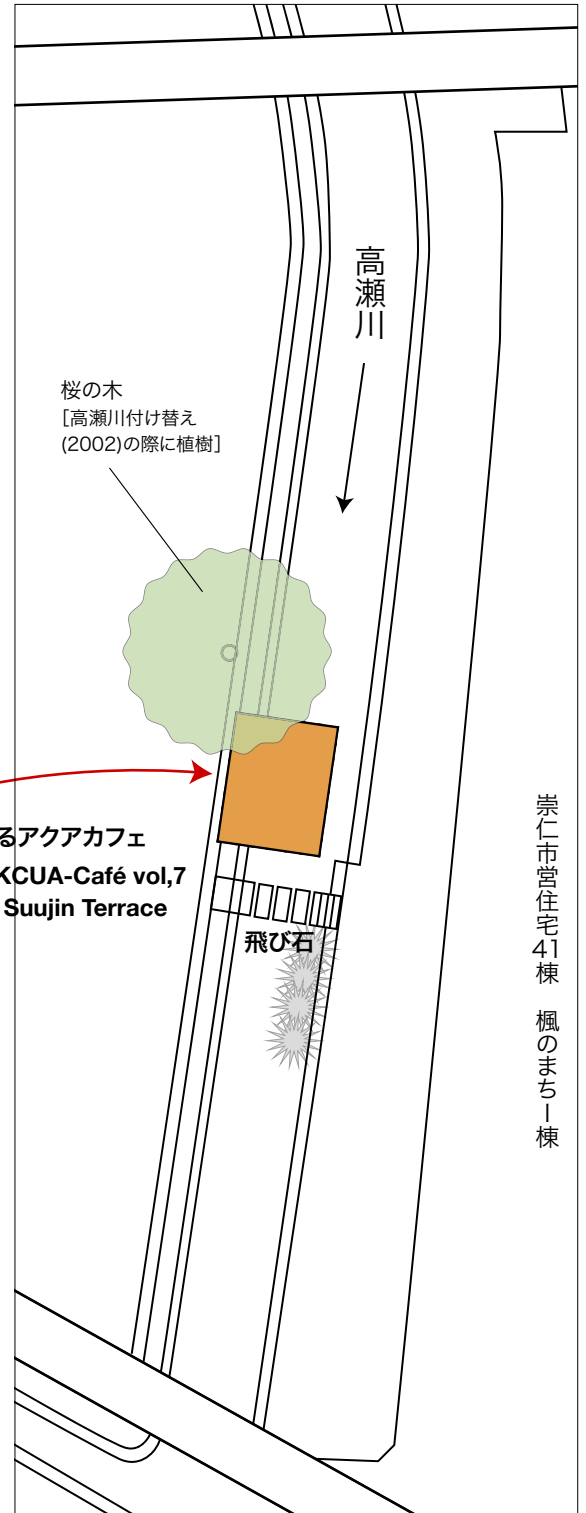
・漂流するアクアカフェ：10月22日（日）午後

解体撤去：12月2日（土）

作業および資材保管場所：今回の作業にあたって「崇仁高瀬川保勝会作業場」を旧崇仁小学校体育館西側に設営する（同校を管轄する京都芸大総務課は容認。芸大芸大移転まで引き続き使用予定）。



京都芸大移転予定地



*京都市立芸術大学移転整備プレ事業《still moving 2017：距離へのパトス—far away/so close》

2023年、京都市立芸術大学はJR京都駅東側の崇仁地域への移転を予定している。その移転整備プレ事業として2015年以来継続的に行っているプロジェクトが「still moving」である。今年「still moving 2017：距離へのパトス—far away/so close」(9/23 - 11/5)が行われ、その一環として「漂流するアクアカフェ」を実施した。助成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」。

崇仁テラス イメージスケッチ



現場での作業時間を極力減らすため、テラスのための材料加工と組立ては、現在、京都市立芸術大学の管理になっている旧崇仁小学校体育館西側で行った。

その作業場所を「崇仁高瀬川保勝会作業所」と名づけた。その場所を芸大移転まで保勝会など地域の人も使用できる場とすることで、創作活動を媒介とした将来の京都芸大と地域の協働関係のシミュレーションにならないかと考えた。

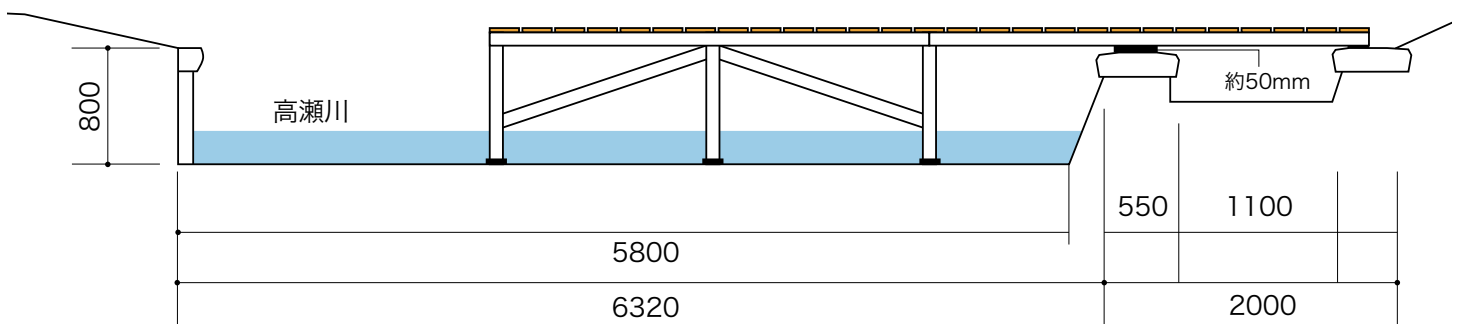


崇仁高瀬川作業所

崇仁テラス プラン
Suujin Terrace on Takasegawa

床部 杉足場板
4mLx200x30
54枚

束柱 バタ角
3000mmx90x90



崇仁テラスの制作

2017年10月7日(土)

4mの足場板54枚、柱材ほか資材を旧崇仁小学校体育館横の作業所に搬入。

2017年10月8日(日)

当たりをつける(写真右)。

流れがあるため川の中では作業しにくく、柱には束石をつけ、濡れ回避と安定性を図った。

ただし、景観面と安全面から川で作業することを極力避け、加工は原則として旧崇仁小学校の作業所で行った。



10月19日(木)

ほぼ加工を終えた材木を現場で組む。石の凹凸や川底の砂の不均等さから現場での再調整を余儀なくされる。



10月21日(土)

前日までに柱15本の組立ては終え、この日は筋交いや足場板の取り付け作業。大雨のなかでの作業となる。

10月21日(土)

雨天での足場板の取り付け作業には、地元住民のほか、「漂流するアクアカフェ」スタッフのむらたちひろ（美術家）、状況のアーキテクチャー受講者の韓河羅、廣野鮎美の協力を得た。



10月21日(土)

40～50人は乗れるよう、構造の強度と安定性に配慮した。



10月22日(日)

「漂流するアクアカフェ」当日は台風接近のため、テラス上で開催することは断念し、体育館で行った。写真はテラス見学会のもよう。



崇仁テラスの活用

崇仁テラスは10月末に撤去予定であったが、設置後まもなく崇仁高瀬川保勝会ほか地域住民から設置期間延長を望む声があがった。保勝会による南部土木事務所への申請の結果、11月末までの設置が認可された。

設置場所は、芸大移転以後、芸大と地域が交わり合う要の場所になる。よって移転コンセプトでもある〈テラス〉がどのように機能しうのかを考察することは意義あることと思われた。

主な要点は、

- 1) 来訪者から単管ではなく木造であることから暖かみを感じるとの声を得た。
- 2) 現在、西側が工事準備のため立入禁止で、南側のフェンスも封鎖されているため、テラスへのアクセスは飛び石のみとなり、高齢者の多い住民には近づきにくい状態にある。
- 3) それ以前に長期化する高瀬川西岸へのアクセスの禁止状態は、地域住民にとって散歩のルートも制約されたアメニティの低いものとなっていることが明らかになった。

11月4日(土)

遠藤亜季(京都芸大大学院油画専攻修士2回生)による「川どここそこー崇仁テラススケッチー」。地域における芸大生の日常的な創作活動の先取りとして。

川は浅いので、川に入ったり、上がって見たりと、さまざまな角度からテラスでの活動に接することができる。

俯瞰写真は「崇仁テラス」が周囲に広がる空き地の「トレーシング」であることを示している。

テラスには看板を設置し、「柳原町歌」(元崇仁小学校校長・玉置嘉之助作詞)の歌詞の一部変更して記した。

「桜まいちる春の朝、月の冴えたる秋の夜、あそびに來ませ四方のひと」



11月11日(土)

この日、崇仁テラスは、地域住民や学生などで構成される崇仁発信実行委員会主催の崇仁まち歩きイベントの最終的な集合場所・記念写真撮影場所として使われた。変わりゆくまちの景色とともにドローンでの空撮も行われた。

その後も、テラスで親子が憩ったり、子供が踊ったりしていたという報告を受けた。

テラスは「花見」などのイベント会場としてだけでなく、地域の子供らが自由に遊べる空き地としても機能しようと思われる。

川の上のオルタナティブな「空き地 terrain vague」としての崇仁テラス。



同日、崇仁テラスに簡易温室を組立て仮図書室を設けてみた。これも〈テラス〉としての芸大の地域における活動のシミュレーション。

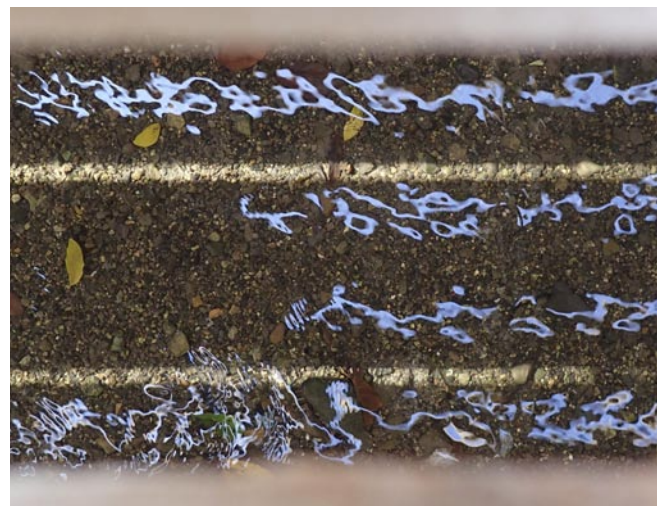
テラス周り的高瀬川には魚がたくさんいて、鳥が集まる。魚を取りに子供たちもやってくる。

菊浜高瀬川保勝会の人々が放ったカワニナも増えている。カワニナはホタルの幼虫が好む。

将来、この地にホタルが舞うようになれば、芸術教育にも益するユニークな地域再生につながるるとともに、京都駅の間近に自然豊かな環境を再生したとして評価されうると思われる。



テラス横の飛び石の周りに無数に群れる魚



テラスの板のすきま(約25mm)からみえる水の流れと光

崇仁テラスの撤去

12月2日(土)

テラスの分解撤去は崇仁高瀬川保勝会主催の定例の川掃除の日に行った。午前中に足場板をはずしておき、午後1時半からの川掃除のあと、川掃除参加者に手伝ってもらいながら解体し、手押し車ですべての材料を旧崇仁小学校体育館西側に運んだ。

解体の際、地域の小学生が手伝いたいと言うので、指導して参加してもらった。少年の父親は大工だそうで、再制作のときも手伝いたいと言った。

テラスの組立てや撤去が住民たち自身で行えるようになれば、高瀬川を舞台に、創作活動を通じた地域コミュニティの再生と活性化につながる事が期待される。

作業はこの日のうちに無事完了した。材料は旧崇仁小学校体育館西側の保勝会作業所のスペースにコンパクトに収納した。



今回、制作・設置・活用・撤取・保管の作業サイクルが確認でき、今後の展開の礎を築くことができた。次は来春の桜咲く時期に、再度「崇仁テラス」を設営し、創造的な活用を図る予定である。

右写真：テラス撤去後の高瀬川



崇仁地区を流れる高瀬川(1611年に角倉了以・素庵父子によって開削された運河)は、「テラス terrace」を基本コンセプトとした京都芸大移転計画の要です。今回の漂流するアクアカフェ「川は青かった〜(テラス)と(河原)」は、高瀬川に実際に「テラス」を仮設し、ものづくりや表現の技術が育まれる場のありようと、自然や社会との関係を、キャンパス計画を視野に入れながら探ります。

技術の根源は自然や大地との関わりにあります。その自然は、京都の川が染め物で使われて色が変わったように、職能氏がシエアするリソース(資源)でした。川はまたさまざまな物資を運ぶ重要な交通路である一方、氾濫や洪水など生態学的攪乱をもたらすことで、地域の生命の多様性や人々の知恵や技術を育んできました。それに接する河原は、自然の不安定なダイナミズムにさらされる土地ならざる土地ですが、芸能や造園をはじめ、さまざまな技芸・技術の生まれる場所でした。そこはまた多様な人々が集い、人と自然、この世とあの世をつなぐ場所でもありました。

「テラス」としての京都芸大は、人間・自然・芸術の関係を捉え直すなかで、崇仁の地に、さらに京都という都市に、クリエイティブな新しい「河原」をどうつくりだせるのでしょうか。

第7回漂流するアクアカフェ

川は青かった〜(テラス)と(河原)

2017年10月22日(日) 13:00~17:00

高瀬川 仮設テラス(下京区下之町6丁目)

(雨天の場合は旧崇仁小学校体育館)

13:00~ Workshop「まちの景色を染める水」(企画:むらたちひろ)

14:00~ 川掃除

15:00~17:00 トーク「川は青かった〜(テラス)と(河原)」

ゲスト: **森本幸裕**(景観生態学/ランドスケープデザイン/京都大学名誉教授)

やなぎみわ(美術家/演出家/京都造形芸術大学教授)

聞き手: **榊原充大・本間智希**(RAD/建築リサーチ)

主催=漂流するアクアカフェ実行委員会 driftakcua@gmail.com

P R O F I L E

森本幸裕 | MORIMOTO Yukihiro

京都学園大学特任教授/京都大学名誉教授。京都大学大学院農学研究科博士課程林学専攻修了、農学博士。京都芸術短期大学、京都造形芸術大学、大阪府立大学、京都大学大学院等で教授を歴任。ランドスケープ・デザイン、景観生態学、緑化工学の教育・研究に従事する傍ら、生物多様性国家戦略や名勝指定などに関わる。京都駅ビル「緑水歩廊」監修、ピオトープモニタリングで京都環境賞、都市における自然再生の指導と研究で日本造園学会田村賞受賞。最近は雨庭を中心にグリーンインフラの社会実装に向けて活動、「和の花」生き物文化再生に取り組む。編著書に『景観の生態史観〜攪乱が再生する豊かな大地』(京都通信社、2012年)他多数。

やなぎみわ | YANAGI Miwa

美術家/演出家/京都造形芸術大学教授。神戸生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科(染織専攻)修了。1990年代後半より写真作品を発表。国内外での個展多数。2009年、ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表。2011年から本格的に演劇活動を始め、美術館や劇場で公演した後、2015年『ゼロ・アワー東京ローズ最後のテープ』でアメリカ・カナダツアー。2016年夏には、台湾製の移動舞台車による野外演劇『日輪の翼』(中上健次原作)の旅公演がスタート。今年9月に、東十条の阪神高速出口にて、京都公演が行われた。

RAD - Research for Architectural Domain

「建築の居場所」を探り、建築、空間、まちに関する調査と提案を行うリサーチ組織。現在のメンバーは川勝真一、榊原充大、木村慎弥、本間智希。still moving 2015では、「SUJIN MAINTENANCE CLUB」を実施、今年の「still moving 2017」では、「Moving Terrace Works: RAD「彷徨う採集車」」を行う。

榊原充大 | SAKAKIBARA Mitsuhiro

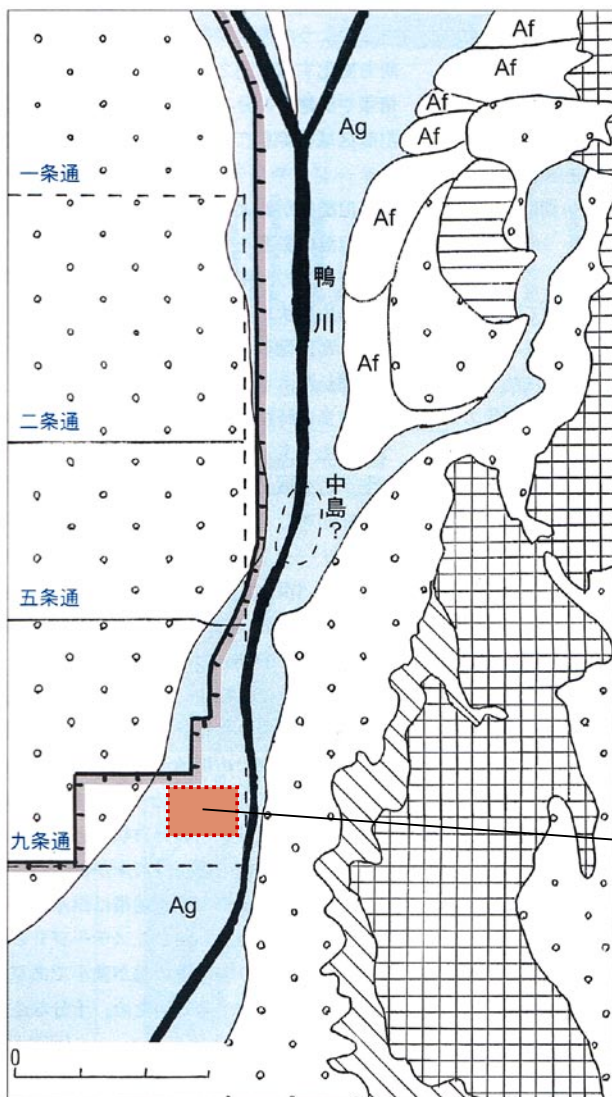
建築家/リサーチャー。愛知県生まれ。2007年神戸大学文学部人文学科芸術学専修卒業。建築に関する調査、取材、執筆、物件活用提案、アーカイブシステムの構築など、編集を軸にした事業を行う。2008年、RADを共同で開始。寄稿書籍『レム・コールハースは何を変えたのか』(2014)、制作書籍に『LOG/OUT magazine ver.1.0』(2015)ほか。2017年『Exhibition as Media 通りのゆめ』参加(神戸アートビレッジセンター)。京都精華大学・京都建築大学校非常勤講師。

本間智希 | HONMA Tomoki

建築史/文化的景観のフィールドワーカー。静岡県生まれ、東京都で育つ。2013年早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学修了、2013年RAD参加。2016年5月より独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室アソシエイトフェロー着任。共編著に『川と暮しの距離感—四万十・岐阜』(奈良文化財研究所、2017)ほか。本年9月23日トークイベント「大地をめぐる住まいと風景」企画運営(Media Shop、京都)。

むらたちひろ | MURATA Chihiro

美術家。2011年京都市立芸術大学美術研究科染織専攻修了。近年の展覧会に「未来の途中の途中の部分」(2017、Gallery@KCUA)、個展「水面にしみる舟底」(2017、ギャラリー一揺)等。2014年〜現在、京都市立芸術大学非常勤嘱託(染織)。2017年京都造形芸術大学染織テキスタイルコース非常勤講師。作家仲間と共に運営する「美術教室Urszula(2012〜)」他、W.S.の企画・講師を務める。



- 平安京跡域
- お土居
- Ag 沖積層
- 洪積層
- ▨ 高位段丘
- ▨ 丘陵
- ▨ 基盤山地
- Af 扇状地

崇仁地区
平安京期は鴨川のほぼ河原だった。鴨川は氾濫を繰り返す暴れ川だった。

still moving 2017
距離へのパス
-Far Away/So Close

***漂流するアクアカフェ Drift@KCUA-Café:**

2023年に予定されている京都芸大移転に先立ち、京都市内外をあちこち漂流しながら、未来の「芸術大学」のあり方をめぐってアイデアや情報を交換・共有し、世代やジャンルを超えたネットワークを構築していくクリエイティブ・プラットフォーム。「@KCUA」は、芸術を人と社会を潤す「水 aqua」と捉える京都芸大のコンセプト。毎回の記録は「漂流するアクアしんぶん」によって学内外に発信している。

